

2011 年度 システム工学部教職部会

自己点検・評価報告書

2012 年 3 月 31 日

目次

A. 理念・目的	1
1. 現状の説明	1
2. 点検・評価	1
3. 将来に向けた発展方策.....	1
4. 根拠資料.....	1
B.教育内容・方法・成果	1
〈教育内容〉	1
1. 現状の説明	1
2. 点検・評価	1
3. 将来に向けた発展方策.....	2
4. 根拠資料.....	2
〈教育方法〉	3
1. 現状の説明	3
2. 点検・評価	3
3. 将来に向けた発展方策.....	4
4. 根拠資料.....	4
〈成果〉	4
1. 現状の説明	4
2. 点検・評価	4
3. 将来に向けた発展方策.....	5
4. 根拠資料.....	5
C. 内部質保証	5
1. 現状の説明	5
2. 点検・評価	5
3. 将来に向けた発展方策.....	5
4. 根拠資料.....	6

A. 理念・目的

1. 現状の説明

本学では、創立以来の実学志向の理念を有している。こうした大学の基本理念のもとに、社会において信頼と尊敬を獲得しうる教師であるとともに、工学専門教育を基礎として数理科学に優れた、豊かな教育的実践能力を有する教師の育成を教職部会の理念としてきた。工科系大学として培ってきた優れた研究者や技術者の養成のための教育研究体制を基盤に、理工系分野の中等教育において創造性に富んだ個性的な教育を実践する人間性豊かな教員を養成することを目的として取り組んでいる。(資料1)

2. 点検・評価

毎年、各学年を対象とした教職ガイダンスを開催しているが、その際に理念・目的について口頭で説明している。

今年度から、システム理工学部では教職課程への申し込みを1年後期からとした。これは、半年間、本学での学生生活を過ごすことによって、大学での学習の意義を知り、教職課程の理念について十分吟味した上で、適切な履修計画を組み立ててもらおうと考えたからである。

3. 将来に向けた発展方策

今後、OBの現職教員と在校生が交流できる機会を設けることによって、現在学んでいる専門的な教育が、中等教育の現場でどのように生かされているのかを学べるようにしていきたい。

また、学生課における教職履修相談や、キャリアサポート課における教職に関連した就職支援などを整備することにより、教学組織で取り組んでいる専門分野の学習や教職に関する学習の目的と、職業に求められるスキルとを結びつけていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料1)『平成21年度 教職課程認定大学実地視察資料一覧 実地視察調査表』

B.教育内容・方法・成果

〈教育内容〉

1. 現状の説明

システム理工学部の専門教育を生かし、人間形成に関わる幅広い教養と視点の獲得を目指すことを教育目標としている。具体的には、人間の成長や発達、教育の歴史や社会との関わり、また教科の内容や指導法の理論・技能、教職の実践的な知識や技術などについて系統的に学修することとしている。

2. 点検・評価

教職課程では、上記の目的に沿った教育を行うために、授業の配当学年の見直しに着手した。これまで1,2年次に集中していた教職に関する科目を、1-3学年を通してバランスよく配当した。

1年次には「教職論」と、総合科目などに関する4科目、さらには選択の「教育の近代史」と「教育の現代史」を配当し、教職課程を履修することの意義について十分な時間を取るよう配慮した。2年次には、教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育心理学」「道徳教育の研究」「特別活動の研究」「教育方法・技術論」を配当し、教職としての専門的な教養と実践力を養うようにした。3年次にはさらに教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育課程論」「生徒・進路指導論」「教育相談論」「教育社会学」を配当し、さらに専門的な考察力と実践力を深めるよう促した。(資料2)

以上の取り組みにより、教職課程としてバランスのとれた科目配当とするとともに、専門科目の深まりと合わせて教職に関する科目の学習も進行していくようにした。こうしたカリキュラムの編成によって、学生たちが、各学科の専門的な学習と、教職課程の教育に関する専門的な学習とを結びつけていくことができるように配慮した。

また、学生たちが学習を計画的にすすめていくために、履修の仕方についても各種の資料を提供している。学生に配布している『学修の手引き』には、学科ごとに各教科の免許取得に必要な履修科目の一覧を掲載している(資料3)。また、教職ガイダンスにおいても、モデルとなる履修計画を示した(資料4)。2学年以降では、教職カルテに単位取得科目を記入していくことで、現在の履修状況を確認できるようにしている(資料5)。各種のガイダンスや教育実習などの詳細については、教職課程で年3回発行している『教職だより』を通じて学生に伝達している(資料6)。また、大学HPでも年間計画を確認できるようにしている。(資料7)

3. 将来に向けた発展方策

昨年から各学年の授業の配当を変更してきたが、学生たちの履修状況などをふまえて、常に最適なカリキュラム編成としていきたい。また、教職課程のカリキュラムは、教育に対する社会的な要求の変化を受けて、改正されることがある。本学でも、文部科学省が示す教員養成教育のカリキュラム変更に応じて、適切な内容のカリキュラム編成をすすめていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料2) 2011年度教職ガイダンス配付資料、3ページ

(資料3) 『2011年度 学修の手引』、27-31ページ

(資料4) 2011年度2年生教職ガイダンス配付資料、1-2ページ

(資料5) 教職カルテ、3-4ページ

(資料6) 『教職課程だより』22号、6ページ

(資料7) 「芝浦工業大学ホームページ内 教職課程 教職課程年間スケジュール」

http://www.shibaura-it.ac.jp/education_course/schedule.html

〈教育方法〉

1. 現状の説明

シラバス 15 週の授業構成において、達成目標を設定し、予習・復習等の課題明示を行うことにより、学生の自主的な学修を促し、支援を行っている(資料 8)。

また、授業の実施面では、授業内容に関連づけられた小レポート、実験・実習の報告書の作成などを通して教員に必要な表現力を育成するとともに、討議やグループディスカッション、模擬授業などを取り入れることによって、プレゼンテーション能力の向上を図っている(資料 8)。

2. 点検・評価

シラバス作成段階で昨年度より最終週（第 15 回）の試験のみの授業は是正され、講義とあわせたものにして実質授業の内容を確保するように改善した。

昨年度までは、教職科目の中に、工学部とシステム理工学部の合併授業が編成されていたために、クラスの規模が大きくなることにより、シラバス内容と授業方法の展開において、一部無理が生じ、履修学生の理解到達度にかなり差が生じていた授業があったが、本年はそれを解消した。

教職課程においては、教育実習生の実践力の形成に力を入れてきた。教科指導法の授業の時間内では、すべての学生が、模擬授業を行うことができないため、実践的な教育機会において、その能力を養うことができない。そのため、本学では、事前指導の時間においても、すべての学生に模擬授業を行わせることによって、実際に授業を組み立てる企画力について学ばせている。また、本年行われた事前指導では、現場の教員を招き、大学の中だけでなく、外部から見て客観的な力量を形成するために必要な認識を養っている。

併設校に送り出した教育実習生について、どのように指導教員の方々が評価したのかを受け止めて、それを大学における事前指導に生かすことを課題として、併設校の管理職および教科担当教諭の先生方と教職課程教員とで会合を設けて、話し合った。教育実習から戻ってきた後に行う事後指導では全員、口頭で報告を行い、他の教職課程履修者や教員との間で経験を共有するとともに、その内容について点検を受けることとなっている。

さらに、教職課程では、学生に自主的な学習を促すことを目的として、5 号館 2 階に教職コーナーを開設した。ここには、各自治体の教員採用試験情報を掲示するとともに、教職志望者のための各種のガイダンスや、外部の説明会のお知らせなどを掲示している。また、教職に関する雑誌や、各自治体の教員採用試験問題も備え付けて、学生たちが将来のキャリアに向けた学習をすすめられるような環境づくりをすすめている。さらに、教職に関する個人的な相談をうけるための教職相談室も設置している。

学生の学外の活動についても自主的な活動をサポートするよう取り組んでいる。現在、芝浦工大中学高等学校と提携して、高校生を対象とした補習授業に学生を派遣し、学習ボランティアの経験を積ませている(資料 9)。また、児童相談所への学習ボランティアの派遣

についても、希望者を送り出すなど、学外の児童福祉ならびに教育に関する機関において、教職に関わる実践的な取り組みを支援している。

3. 将来に向けた発展方策

学生たちに教育に関わる実践的な資質を身に付けてもらうことを目的として、外部講師の積極的な活用や、休業期間を利用した学校見学を行うことによって、通常の講義内容と現場における実践的な技術・知識とを結びつけていきたいと考えている。特に事前・事後指導、教職実践演習などでは、併設中学校・高校や、地域の中学校との連携を図っていくことにより、現場の課題を取り入れながら、学習をすすめていくことのできる体制を作っていきたい。来年度からは、上記のようなサポートをしていただける併設校には、実習生の参観などをふまえて話し合いをし、教育実習生の質保障に努めることを計画している。

また、就職の対策として、教職に関する情報を収集するようにしてから日が浅いため、教職コーナーの掲示物がそれほど多くない。キャリアサポート課と連携し、多くの情報を掲示できるようにしていきたい。

4. 根拠資料

(資料 8) 「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部教職」
<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900351.html>

「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部総合科目」
<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900311.html>

(資料 9) 学習支援ボランティア募集要項

〈成果〉

1. 現状の説明

成果については、教職課程の認可を受けて 3 年目であり、卒業生を出すのが来年度であるため、示すことはできない。

教職課程の登録者は、システム理工学部の教職履修が開始される前年の 2008 年の履修登録者が 79 名なのに対し、システム理工学部での教職履修が開始された 2010 年には 191 名、1 年次では 189 名の登録があった(資料 10)。

昨年度から、教員採用試験の対策講座を開講した(資料 11)。これらの講座によって、実際に教員として働くための心構えや、仕事の内容について知り、将来の進路選択の参考にするとともに、教員採用試験の準備をすすめるきっかけとした。

2. 点検・評価

本学において教職課程が工学部のみに設置されていた当時と比べて、教職課程の履修者と教員志望者が大幅に増加している。途中経過の状況としては、教職課程を履修している学生が教職 1 期生で 72 名、教員志望者が 22 名いた。教職 2 期生では 108 名が教職課程を

履修し、教員志望者が 50 名にまで増えている。教職課程履修者はシステム理工学部新入生の 22%にあたる(資料 12)。

昨年 12 月 10 日実施の「教員採用試験トライアル模試」受験者は 45 名、このうち今年度開講予定の教員採用試験対策講座受講希望者は 33 名おり、教員採用試験に関心を持っている学生が一定数いることがうかがえる(資料 13)。

3. 将来に向けた発展方策

中等教育における理数系の教員養成機関に期待されている役割を受け止め、実際に現場で活躍できる教員を送り出していきたいと考えている。今後は、教員採用試験の対策を目的とした講座を開講し、学生のニーズに応じた取り組みをすすめていくようにしたい。

本学では、埼玉県、横浜市、京都府、京都市の中学校の数学・理科の教員についてはそれぞれ教員の推薦枠をいただいている(資料 14)。こうした制度は近年採用する自治体が増えつつある。今年度は、システム理工学部では希望者はいなかったが、今後はこうした推薦制度の利用についても積極的にすすめていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料 10) 学生課「教職履修登録集計資料」

(資料 11) キャリアサポート課「平成 22 年度 教職関連支援講座一覧表」2010 年度

(資料 12) システム理工学部 教職課程履修状況

(資料 13) キャリアサポート課「「教職志望についての調査」集計」

(資料 14) システム理工学部教職課程「教員採用試験大学推薦に関する公示」

C. 内部質保証

1. 現状の説明

教職課程においては、先に示した部会の理念・目的を実現するための、教育の質については、定期的に行われる教職課程会議において検討している。点検・評価、並びに教職課程の現況に対する評価を公表するにあたっては、この会議での検討をふまえて、自己点検・評価報告書の作成を行っている。

2. 点検・評価

ここでは昨年度から今年度にかけて教職課程に関わる授業、ならびに課外活動を振り返ることで、教職課程の活動を現況のまとめに反映した。また、自己点検・評価報告書の作成を通して、教員間で教職課程の現況について相互点検を行うよう取り組んでいる。

3. 将来に向けた発展方策

今後も、各学年、並びに卒業時においてアンケートを実施し、本学の教育環境が、学生のニーズにこたえるものとなっているかどうかについて検討することとしたい(資料 15)。

各学年において、教職を目指す学生に適切な教育機会を提供するとともに、実際に教員採用試験や私学適性検査の対策に必要な準備について、改善に取り組んでいくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料 15)「教職志望についての調査」アンケート用紙